七高僧 ⑦ 源空聖人

今月は寺報十月号に続き、七高僧第七祖「源空聖人」を紹介したいと思います。

源空聖人の略歴

源空聖人は長承二（西暦一一三三）年四月七日美作国久米（岡山県久米郡稲岡南村）に生まれ、幼名を勢至丸といいました。九歳の時父は夜襲を受けて殺されましたが、臨終のときに「怨みに報いるに怨みをもってしてはならない。怨みに報いるには恩をほどこせ」と父からさとされ、勢至丸は父の遺言により僧侶になりました。

十五歳で比叡山に上り、十八歳で黒谷の叡空の弟子となり、法然房源空と名のったと伝えられています。比叡山で一乗・三乗の学問を学んでも三密止観の行業に励んでも悟りの道を見出すことができず二十四歳の時、比叡山を出て求道のために諸国遍歴の旅に出ました。

嵯峨の清涼寺にいき、奈良の興福寺、醍醐で三論宗を学び、仁和寺で華厳宗を学び、その他、密観並びに四部律宗の具足戒をうけるなど、各宗の奥義をきわめられましたが、どうしても真実の救いに出会うことができませんでした。

そこで再び比叡山に帰り、源信和尚の『往生要集』によって往生極楽の道を求められ、その後、善導大師の『観経疏』「散善義」のご文により弥陀本願の真髄を体得され浄土宗を立教開宗されました。

生前は念仏停止の命によって流罪になり、その後、流罪を許され京都にお帰りになりましたが建暦二（西暦一二一二）年一月二十五日に七十九歳で往生されました。

源空聖人の著述・
教義の発揮

源空聖人の著述

『選択本願念仏宗』二巻
『漢語灯録』
『和語灯録』

源空聖人の著述として『選択本願念仏宗』二巻（以下、選択集という）他があげられますが、それ以外に源空聖人滅後に編纂された書物は多数（省略）あります。

源空聖人の教義の発揮

源空聖人は『選択集』で浄土宗は、龍樹菩薩により易行道、曇鸞大師により他力、道綽禅師により浄土門と、先師の導きを受け、凡夫が報土に往生する道を明らかにされ、さらに、阿弥陀如来が凡夫が報土へ往生する行として念仏を選ばれた（選択念仏）として、浄土宗の立教開宗を宣言されました。

親鸞聖人は源空聖人の『選択集』三心章に説かれている信疑決判の釈によってただ信心をもって救われていく浄土真宗の宗風の根拠とされました。

『正信偈』源空讃に

還来生死輪転家
決以疑城為所止
速入寂静無為楽
必至信心為能入

とあり

私たちが迷いの世界を生まれ変わり死に変わりするのは阿弥陀如来の本願を疑うからであり、速やかに阿弥陀如来のお浄土に救われていくのは必ず信心をもって決まるのですよと明らかにしていらっしゃいます。

毎朝のお朝事で正信偈をつとめながら、ここを法度といただいてます。

法語の世界

《原　文》

信もなくして大事の聖教を所持の人は、をさなきものに剣を持たせ候ふやうに思し召し候ふ。そのゆゑは、剣は重宝なれども、をさなきもの持ち候ば、手を切り怪我をするなり。持ちてよく候ふ人は重宝になるなりと云々。

（『蓮如上人御一代記聞書』二百八十）

《現代語訳》

「信心もない人が大切なお聖教を所有しているのは、幼い子供が剣を持っているようなものだと思う。どういうことかというと、剣は役に立つものであるけれども、幼い子供が持てば、手を切ってけがをする。十分、心得のある人が持てば本当に役立つものとなるのである」と仰せになりました。

金光寺春季彼岸会法要のお知らせ

とき　三月二十一日（火）　午前十時～
ところ　金光寺本堂
勤行　正信念仏偈（草譜）・和讃六首引き
講師　住　職
その他　経本・念珠・式章（門徒・仏婦会員）をご持参ください。

法要終了後、仏教婦人会総会を開催します。

総会終了後、お斎はお配りしますので、ご自宅でお召し上がりください。

親鸞聖人お厨子修復のお知らせ

親鸞聖人お厨子の痛みが激しいため、この度、修復することといたしました。

また、親鸞聖人の御影も痛みが激しいため新しい御影をご本山からお受けすることといたしました。注文は終えたのですが、新しい御影は８月１日ごろに届く予定です。

長舘家ご遺族一同様から長舘家永代供養として高額のご懇念を、この度、賜りましたので、そのご懇念を原資として修復します。

お厨子は先月１２日に「株式会社仏壇の古屋敷」本社工場へ修復作業のため搬出しました。

しばらく、寂しい思いをしていただくことになりますがお許しいただきたいと思います。